



# 帯山小学校だより

No.4 R7.7.1 文責 校長 西方 浩一

## 保護者や地域の力をかりながら

先月は、いじめ防止等対策委員会や学校評議員会、民生・児童委員さんとの連絡会、育成クラブやP T Aの運営委員会など、地域や保護者の皆様と学校の連携を深める会をたくさんもつことができました。



「学校は保護者や地域と共にありたい」というのが私の思いです。

「帯山の子どもは帯山で育つ」を合言葉に、今後も信頼関係を築いていただくと幸いです。今年度、P T A加入率が昨年度を上回ったとのうれしい報告もありました。これからも「こどもまんなか帯山」の輪が広がることを願っています。



## 4分の1が過ぎるころに思う

今年度が始まって3か月、1年の4分の1が過ぎました。この3か月を振り返ると、子どもたちのあいさつがよくなっています。朝からゴミ拾いをしていても自分から「校長先生、おはようございます。」という声が多く聞かれるようになりました。また、子どもたちが帽子をかぶって遊ぶようになりました。熱中症やケガの防止にもつながります。先週は、これまでの自分を振り返り、自主的にゴミ拾いをする5年生の姿もみられました。子どもたちの頑張りは、しっかりと認め、ほめ、励まして、成長につなげたいと思います。

## 小学校から幼稚園に求めることは？

先月末、本校校区にある認定こども園「東海大学付属 かもめ幼稚園」の職員研修会で、「スムーズな就学に向けた幼小の連携」というテーマでお話をさせていただきました。そこで、事前に本校職員に標記のお題でアンケートをとりました。



「小学校から幼稚園に求めること」の第3位は、基本的な生活習慣でした。トイレの使い方、片付け、ルールを守る、上靴を履く、石鹸を泡立てるなどあげられていました。同率3位は、おはようございます、いただきます、ごめんなさい、ありがとう、返事などのコミュニケーション・あいさつでした。

第2位は、たくさんの体験・経験でした。縄跳びなど体を使った遊び、ハサミやノリを使った遊び、読み聞かせなどがありました。同率2位は、座って話が聞けるでした。短い時間でいいのでしゃべらずに聞けるようにという意見でした。

そして、第1位は、ヘルプ・SOSが出せるでした。体の不調や痛み、気分、困ったとき、嫌だったこと、失敗したことなど、自分から話ができるようになっているとありがたいということでした。

結果を見て、本校職員は子どもたちの様子をよく見て考えているなと思いました。確かに、大人が先回りして、子どもの意見を伝えるから、子どもが育たないのです。これは学校や家庭、さらには、地域にも通じることです。みんなで心がけたいですね。